

フォローアップ調査について

平成23年度に元気づくり支援金を活用して事業を実施した団体を対象に、事業実施から一定期間経過後の地域への効果や団体の活動状況に関するアンケート調査を行いました。

「地域発 元気づくり支援金」平成23年度実施事業に係るフォローアップ調査の概要

調査目的:「地域発 元気づくり支援金」のさらなる有効活用を図る観点から、支援金事業実施後も継続して地域に効果を及ぼしている事例等の状況を把握し、発信することを目的に実施

調査時期:平成26年 8～9月

調査対象:平成23年度に実施された事業のうち、第三者評価が高かった事業を中心に選定

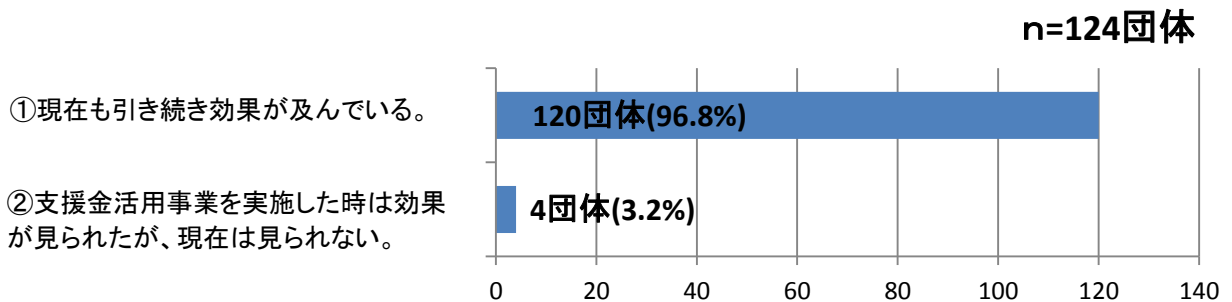
回収状況:回答団体数 124 (送付団体数:151(回収率82.1%))

調査方法:郵送、記名方式 (地方事務所を通じて送付回収)

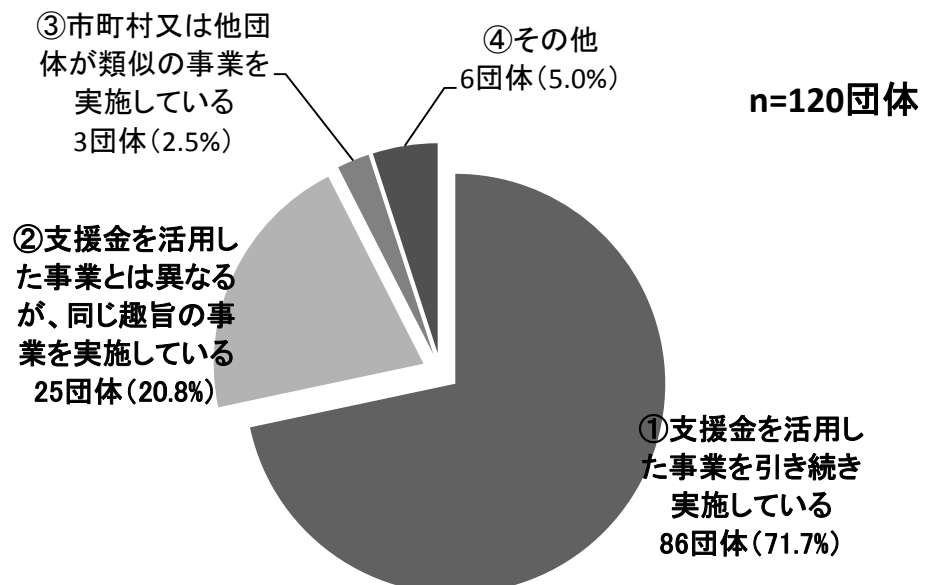
調査内容:(1)支援金活用事業の効果について
(2)団体の現在の活動状況について

支援金活用事業の効果について

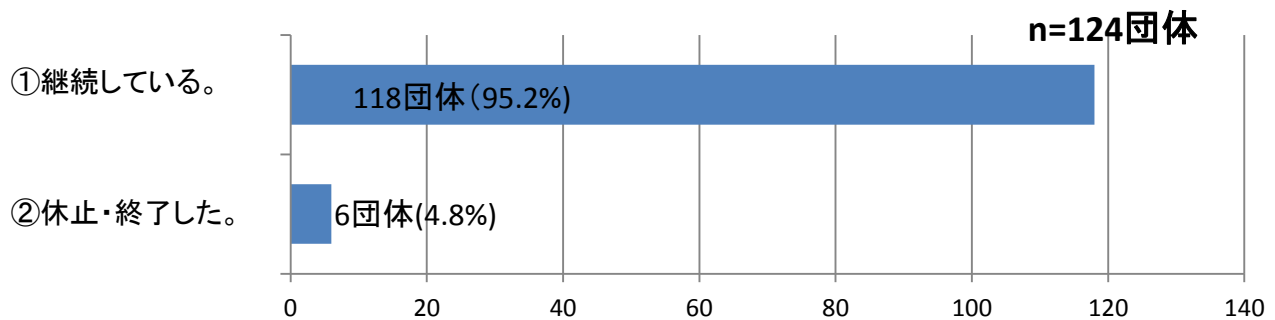
■96.8%の団体が事業の効果が継続していると回答



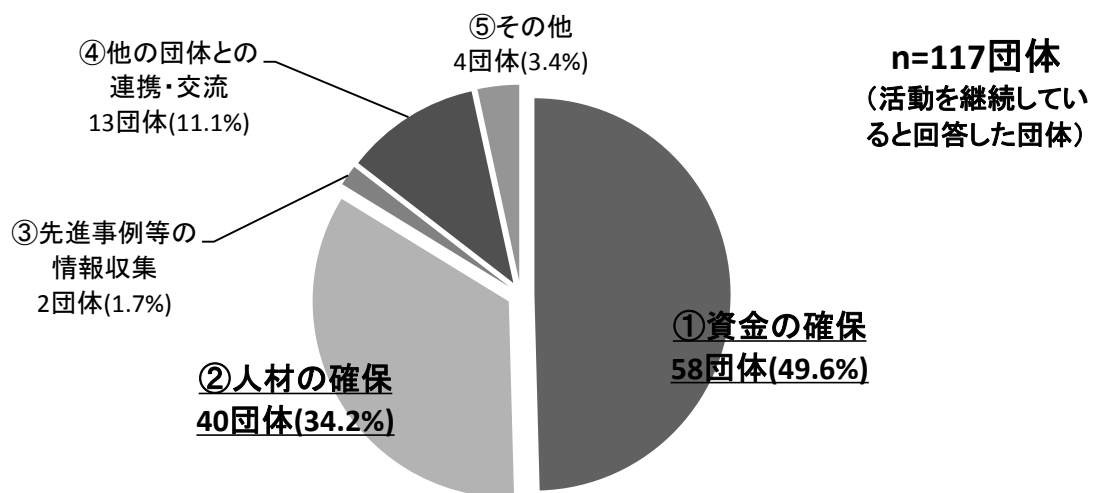
■効果が継続していると回答した団体のうちの92.5%が支援金活用時(H23)と同じ(又は同じ趣旨の)事業を現在も実施していると回答



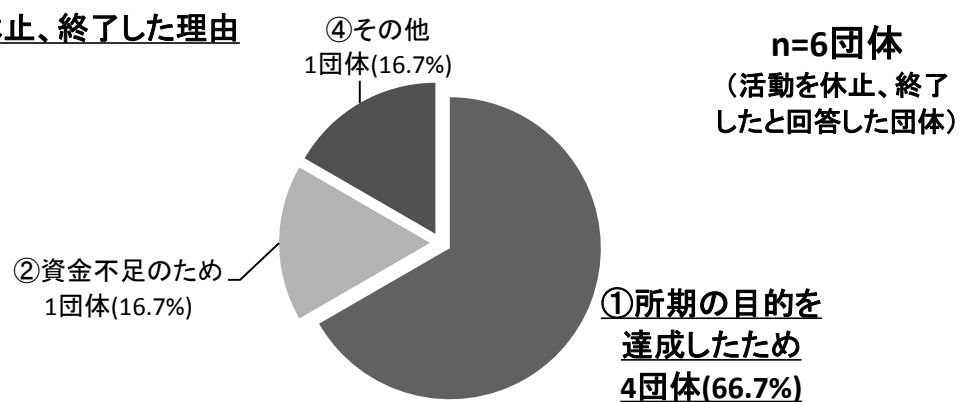
現在の活動状況について



■活動を継続していく上で、最も必要なものとして8割を超える団体が「資金」または「人材」の確保と回答



(参考)活動を休止、終了した理由



「地域発 元気づくり支援金」平成23年度実施事業に係るフォローアップ調査集計

回答団体数 【地区別】	佐久	上小	諏訪	上伊那	下伊那	木曾	松本	北安曇	長野	北信	合計
	21	8	8	11	16	10	21	8	13	8	124

支援金活用事業の効果についておうかがいします

【問1】 支援金活用事業の実施によって地域活性化への効果は現在も続いていますか。
次の番号から一つお選びください。

- ①現在も引き続き効果が及んでいる。
- ②支援金活用事業を実施した時は効果が見られたが、現在は見られない。

①	120
②	4

「①」を選んだ方は【問2-1】及び【問2-2】へ、「②」を選んだ方は【問3】へお進みください。

【問1】で「①」を選択された方におうかがいします。（【問2-1】から【問2-2】まで）

【問2-1】 理由を次の番号から一つお選びください。

- ①支援金を活用した事業を引き続き実施しているため。
- ②支援金を活用した事業とは異なるが、同じ趣旨の事業を実施しているため。
- ③市町村又は他団体が類似の事業を実施しているため。
- ④その他（具体的に下欄にお書きください。）

①	86
②	25
③	3
④	6

【問2-2】 どのような効果がありますか。

また、その効果を持続させるために工夫されている点がありましたらお書きください。

◆どのような効果がありますか

- 里山整備（除間伐等）を効率的に進められ、環境保全、有害鳥獣対策、景観保持等の効果がある。
- 会員が徐々に増えている。
- 町の大人たちの間にもコカリナが定着し、音楽文化の広がりが見られている。

◆工夫されている点

- 他の団体とのネットワークで効果が出るため、趣旨が同様の団体との交流を積極的に行っている。
- 事業継続のため、都市の交流に重点をおき、これまで作成された体験プログラムを活用して都市住民向けに事業を展開している。
- 団体や子どもたちによる環境保全活動を支援するため「環境保全活動支援基金」を設け、その活動の輪の拡大、継続を推進している。

【問4】へお進みください。

【問1】で「②」を選択された方におうかがいします。

【問3】 理由を次の番号から一つお選びください。

- ①支援金を活用した事業と同じ事業は行っていないため。
- ②事業規模が小さかったため。
- ③事業実施方法に問題があったため。
- ④その他（具体的に下欄にお書きください。）

①	3
②	0
③	1
④	0

団体の活動状況についておうかがいします

【問4】支援金活用事業を実施してからこれまでの間、団体の活動を継続していますか。

- ①継続している。（一旦休止した後、再開した場合を含む。）
②休止・終了した。

①	118
②	6

①を選んだ方は【問5-1】～【問5-4】へ、「②」を選んだ方は【問6-1】及び【問6-2】へお進みください。

【問4】で「①」を選択された方におうかがいします。（【問5-1】から【問5-4】まで）

【問5-1】団体設立からこれまでの活動年数を記入してください。

5年以下	41
10年以下	45
20年以下	21
30年以下	3
30年を超える	12

【問5-2】現在の主な事業実施状況を次の番号から一つお選びください

- ①支援金を活用した事業と同様の事業を実施している。
②支援金を活用した事業とは異なるが、同じ趣旨の事業を実施している。
③支援金活用事業とは全く関係のない別の事業を実施している。

①	81
②	35
③	2

【問5-3】今後、引き続き活動していく上で最も必要だと思われることは何ですか。

次の番号から一つお選びください。

- ①資金の確保
②人材の確保
③先進事例等の情報収集
④他の団体との連携・交流
⑤その他（具体的に下欄にお書きください。）

①	58
②	40
③	2
④	13
⑤	4

○活動指標のようなものをはっきりとさせておくこと。

○毎週参加して貰える事業所の確保が困難。

○来場者の満足度を上げるための事業の充実。

○会員の会費や会員で育成した物の余剰分を販売するなどの工夫をしているが、公共的事業という性質上、発展性ある資金源となる収益を上げることが困難。

【問5-4】最近の事業の実施状況や団体の活動状況など自己PRをご自由に記入してください。
 (活動状況の様子ที่わかる資料や新聞記事などがありましたら、添付してください。)

○平成23年度に開催した第1回目の「花もまつり」ですが、今年も4回目を開催しました。来客数も年々増えております。年中行事としても定着してきていると思われます。

○古民家を会場にして、地域の皆さんの力を借りて、料理教室、子どもの夏休み楽しみ会、講演会、写真展、遺品展などを開催してきました。

○今年度も第5回の「全国つるし飾りまつり」を開催し、4月の作品展と7月のつるし飾りまつりと年々知名度もあがり、市民や来所した観光客の皆様に喜ばれています。別所温泉つるし飾りの会員(23名)が毎月3回程つるし飾り講習会を開催し、江戸時代に有った「上田雛」のつるし飾り等を制作しています。

○今年の「諏訪圏工業メッセ2014」は、10月16日(木)～18日(土)の日程で開催し、300社、500ブースを超える出展により多くの来場者(例年25,000人超)とより多くのビジネスマッチングを期待しています。

○竹林整備の活動も活発となり、伐採した竹を活用した肥料の開発、竹林でのグリーンツーリズム商品の構築に取り組んでいます。

○飯田市千代地区での「IIDASTOCK」はある程度根付いてきた感があります。現在はさらに広範囲にこのようなイベントや学生たちが活動できる場所を求めて試験的な事を実施しています。今年度は高校生を中心にしたライブイベントを豊丘村で同志社大学のゼミ研究にからめ実施する予定です。

○水無神社例大祭、道の駅木曾福島、木曾駒高原ホテルイベント、ふる里祭、町内のお祭への参加。(木曾観光協会)

○今月は、9月28日に「水辺のマルシェ」が開催されます。9月のテーマは、魅力的な様々な体験型のワークショップが開催されます。お一人でも家族でもいらしていただき、まちなかを十分楽しんで頂けます。

【問7】へお進みください。

【問4】で「②」を選択された方におうかがいします。(【問6-1】から【問6-2】まで)

【問6-1】支援金活用事業を実施した後、休止又は終了までの年数を記入してください。

1年	10
2年	5
3年	0
4年	0
5年	0

【問6-2】活動を休止又は終了した理由を次の番号から一つお選びください。

- ①所期の目的を達成
- ②資金不足
- ③人材不足
- ④その他(具体的に下欄にお書きください。)

①	4
②	1
③	0
④	1

【問7】その他ご意見、ご要望がありましたら、ご自由に記入してください。

○地域発元気づくり支援金は今後もぜひ継続し、できれば予算枠を増やしていただきたい。

○事業を「スタートさせる資金」としてとてもありがたい制度です。ただし大学生や高校生などまだ仕事を持たないものを中心になる事業を継続させていくためには、やはり県のみならず市町村など行政のバックアップが不可欠であると思います。そのようなものに対するもう少し長いスパンでのサポート体制がつけられることを望みます。

○補助金を交付いただいたことにより、自分たちの資金力では残せなかったであろうレシピ本等という形で実績を残せました。ありがとうございます。旧会はメンバーの年齢的な問題等によって世代交代を果たしましたが、レシピ本を作成したことによって、飲食店においてはまさに“ふるさと料理の継承”が実現したものと考えています。

○地区の活性化を推進するためには、支援金の下限（30万円）を撤廃することも必要かも。活動団体の能力に応じて10万円から支援金を使える制度に改めていただきたい。

○助成は大変ありがたいが、負担をできるだけ少なくしてもらいたい。

○支援金をいただき、スムーズに活動を進めることが出来ました。大変助かりました。初めての事で書類作りに戸惑いましたが、もう少し簡易にできればと思うのですが。

○支援金を受け、ある意味その約束をした事柄を遂行する義務が生じたのが後押しをしてくれたと思います。現在は自分達の会費で会を運営しているが、再度元気づくり支援金の制度に挑戦したい。

○現在は個人の持ち出しも多く、経営を成り立たせるためには、資金や人材の確保と更なるPRが必要。

○会員の高齢化による活動継続の難しさ、事務作業の煩雑さ、ボランティアで活動を続けることの難しさを実感しています。中心となるべき若者は仕事もあり、両立はなかなか大変です。当会で作った商品を、流通に乗せるにはどうしたらよいか？そういう知識のある人がいるといいなあと思っています。

○年数を重ねることにより内容も充実させていかなければならず、だんだんと新しいアイデアが出にくくなってきている。

○現在の課題：①活動拠点がないこと；公民館を借りているが、農家範囲が15を超える区に及び区民から苦情が出ているため、専用の拠点(事務所)が欲しい。②当初受入をして頂いた農家が高齢化のため、常に新規の受入農家を開拓する必要がある。この活動がしんどい。③実質スタッフが3名で負担が増えている。人件費をカバーできる支援金が欲しい。